

36 はじめて義手をつくる方へ向けたパンフレット「はじめての義手」の紹介

三ツ本敦子¹⁾、井上美紀²⁾、関口 進²⁾、茅根孝雄³⁾、田嶋千秋⁴⁾、
小出千鶴子²⁾、樋口幸治²⁾、熊倉良雄⁵⁾、山崎伸也¹⁾、中村 隆¹⁾、
三田友記¹⁾、久保 勉¹⁾、矢野綾子¹⁾、高嶋孝倫⁶⁾、飛松好子¹⁾

¹⁾ 研究所 義肢装具技術研究部 ²⁾ 病院 リハビリテーション部 ³⁾ 病院 管理部

⁴⁾ 病院 看護部 ⁵⁾ 自立支援局 自立訓練部 ⁶⁾ 学院 義肢装具学科

【はじめに】

研究所 義肢装具技術研究部は、臨床サービスを通して経験した問題に対し、リハビリテーションに関する各部門と連携して義肢に関わる課題解決に取り組んでいる。切断者への情報提供はその1つであり、中でも上肢切断者のリハビリテーションに関する情報量は多く、口頭だけの説明だけでは訓練の流れや保険制度を理解することが困難な場合も多い。また、退院後も新たな義手を作る際に手続きがスムーズに行えるよう手元に残る情報の提供が求められる。そこで、義手ユーザーに対して分かりやすい情報を提供することを目的に、義手製作とそのリハビリテーションの流れを整理したパンフレットを作成し、完成に至ったので報告する。

【作成過程とその内容】

はじめに、義肢装具技術研究部内で提供すべき内容を整理し、次に義手のリハビリテーションに関わる各部門の意見を集約した。

パンフレットのタイトルは「はじめての義手」とし、以下の4つの項目を掲載した。

- ① 義手の構成と仕組みについて
- ② 入院から退院までの流れと義手操作訓練について
- ③ 義手費用と費用を補助する制度について
- ④ Q&Aと義手ユーザーからのメッセージ

「はじめての義手」は全22ページの小冊子となり完成した。

本年度8月より配布を開始し、10月より義肢装具技術研究部ホームページ上で公開に至った(<http://www.rehab.go.jp/ri/hosougu/User.html#userpanf-upper>)。

11名の義手ユーザーに対しパンフレットに関するアンケート調査を行ったところ、要望に沿ったパンフレットであり、内容の理解も得られた結果となった。また、義手のリハビリテーションに関わる各部門からの意見より、良く整理されて分かりやすいとの好評を得た。

【おわりに】

これまで、はじめての義手を作る者に対し、義手製作やリハビリテーションに関して説明を行ってきたが、いつでも読み返すことが出来る情報提供も大切であると感じた。今回のパンフレット作成には、義手のリハビリテーションに関わる各部門の協力があった実現可能となり、また各部門間で共通認識を持つことができた。今後、パンフレットを配布する上肢切断者の義手製作とリハビリテーションがスムーズに進むことを期待している。